

# 河川における外来種対策事例研究

## Case studies on measures against alien species in rivers

生態系グループ 研究員 白尾 豪宏

生態系グループ グループ長 前村 良雄

水辺・まちづくりグループ 研究員 阿部 充

企画グループ サブリーダー 都築 隆禎

### 1. はじめに

近年、河川に侵入した侵略的な外来種がさまざまな影響・被害を引き起こしている。有効で効率的な対策を進めていくためには、外来種の新たな侵入や、これらが及ぼす影響・被害、またはその恐れの把握、駆除対策方法に関する最新知見等の情報を逐次収集し、整理した知見を実管理に活用していく必要がある。そこで、本研究においては、河川における外来種に関する最新情報を収集・整理して、学識者で構成する委員会に諮り有益な助言を得るとともに、全国の河川管理者を対象とした講習会を開催して河川管理に活用すべき外来種対策についての知見を広めた。

### 2. 外来種対策の事例収集整理

#### 2-1 文献による事例収集整理

外来魚に関しては、近年分布を拡大しており、流水環境に適応し、河川内における生態系への影響・被害が問題となっているコクチバス(写真-1)に着目した事例収集を行った。止水域における情報は比較的集まったが、実際の河川現場で得られた情報は少なく、さらなる情報収集の必要があると考える。



写真-1 コクチバス

外来植物対策に関する収集文献資料(表-1)のうち、冬季における火入れによる管理は、防火帯の設置やローテーションによる実施を伴えば、土壌表層の外来植物の埋土種子を除去できるなど有効な方法であることが東京大学 鷺谷教授によっても指摘されている。

表-1 外来植物対策資料収集結果の一部

No.	タイトル
1	川と氾濫源の生物多様性
2	野焼き放棄による植生変化を考慮した草地の重要度分級 ~阿蘇地域の草地景観保全に関する研究 その7~
3	野焼きがオオルリシジミの発生に及ぼす影響
4	草地の保全管理をめぐる状況と課題 -阿蘇地域を事例として-(その1)
5	草地の保全管理をめぐる状況と課題(その2) -熊本県阿蘇町を事例として-
6	-最新の持続的な草地管理技術- 半自然草地の植生持続をはかる修復・管理法
7	外来種問題における、外来生物の定義に関する資料的検討
8	特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討
9	兵庫県の主要水系における外来植物の分布
10	ここが聞きたい 失われる生物の「知恵」

#### 2-2 地域連携による外来種対策事例収集整理

地域連携により対策を実現している収集事例のうち、2種を対象に以下に述べる。

##### (1) ボタンウキクサ

国土交通省 熊本河川国道事務所においては、直轄管理河川 緑川における外来植物ボタンウキクサの発生源となっている、熊本県管理水域の江津湖(えづこ 写真-2)にて対策を展開している。江津湖は湧水起源のため、冬季においても15℃以上の水温を保ち、通常冬季に枯死する本種の越冬・発生源として機能している。事務所の河川管理課(担当 野中専門職)が中心となって、周辺自治体やボランティア等に声をかけ協議会を結成、500名の市民を動員して除去活動を行った。作業が膨大で大変な様子が伺えたが、地元からの信頼が厚く、リーダーシップを発揮されていた。



写真-2 冬季の江津湖に広がるボタンウキクサ

(2) アレチウリ対策

天竜川上流河川事務所は、NPO法人天竜川みらい会議（代表 福澤氏）と緊密な連携と取り合いながら、天竜川流域のアレチウリ対策を流域一環・同日対策の実施を実現している。

また、長野県では雇用創出を目的としたアレチウリ駆除事業を行っている。担当者からは前例のない調達上の苦労があったが、熱意が実った経緯を伺った。

いずれの事例においても予算上の制約を伴っており、持続的な外来種対策の実現において、熱意を持ったキーパーソンの存在が重要であると考えられる。



写真-3 天竜川におけるアレチウリ除去

3. 第24回外来種影響・対策研究会

本研究会（座長 鷺谷いづみ教授 東京大学）は、平成10年より当センターが組織し、侵略的外来種への対応方策の検討や外来種対策に関する書籍の監修を行ってきた。今年度は、昨年度発刊した改訂版事例集（写真-4）の活用方法について協議し、委員の先生が講師として参加する講習会の開催を行うこととした。また、平成22年度に名古屋で開催されるCOP10（第10回生物多様性条約国連絡会議）の開催を踏まえ、同事例集の英語版資料を作成することとした。



写真-4 改訂版 河川における外来種対策の考え方とその事例

- 主な侵略的外来種の影響と対策 -

4. 河川における外来種講習会の開催

平成20～21年度において改訂版事例集を全国の河川管理者へ配布したところ、大きな反響を得たことから、直轄河川・ダム事務所の知識習得を希望する技術者を対象に「河川における外来種対策講習会」を開催した。本講習会では、上記書籍の活用方法の解説の他、外来種対策のあり方や、監修委員による最新事例の紹介、パネルディスカッションを行った。この中で、私

はパネラーの一人として、外来種対策への質問の回答などの役割を勤めた（写真-5）。



写真-5 河川における外来種対策講習会開催状況

表-2 外来種講習会 プログラム

【開催内容】	
■日時:	平成21年11月16日(月)13:00~17:30
■会場:	東京都中央区八重洲1-7-4 矢満登ビル5階ルノアル会議室
■プログラム:	<ol style="list-style-type: none"> <li>開会</li> <li>あいさつ</li> <li>基調講演 「河川における外来種対策の考え方」 河川局河川環境課</li> <li>全国河川の実態報告 東京大学 教授 鷺谷いづみ</li> <li>改訂版の紹介 河川局河川環境課 (財)リバーフロント整備センター</li> </ol> <p>&lt;休憩&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事例研究紹介 (1)「ブラックバスの駆除方法と対策について」 近畿大学 教授 細谷和海</li> <li>「外来種駆除の取り組みと地域連携について」 京都大学 准教授 竹門康弘</li> <li>「多摩川におけるハリエンジュ対策について」 東京農工大学 准教授 星野義延</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>パネルディスカッション</li> <li>閉会</li> </ol>
■配布資料:	・改訂版 外来種対策事例集(初版第2刷) ・ブラックバスを科学する(初版第2刷)、ほか
■参加費用:	無料
■参加人数:	65名

開催後に行ったアンケートからは、有意義な講習内容であったことが伺えた（図-1）。また、自由回答欄からは、「成功・失敗事例の充実」や「地域連携事例の詳細説明」、「現場実習形式の採用」などの意見が聞かれた。今後の参考にさせていただきたい。

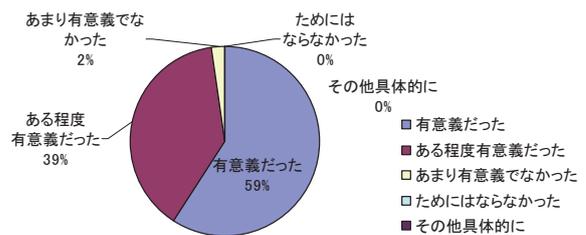


図-1 外来種講習会アンケート結果の一部

5. おわりに

河川において侵略的外来種による影響・被害は、治水、利水、生態系へ広範に及んでいる。これらに対し、官学民の連携により、保全の対象や目標を明確にした順応的な取り組みが肝要であると感じた。

<参考文献>

1) 監修 外来種影響・対策研究会. 発行 (財)リバーフロント整備センター (2008) 改訂版 河川における外来種対策の考え方とその事例.